

## 卷頭言

〈小特集〉  
あたらしい日本近現代史研究の模索

## Quest for Advanced Study on Modern Japan

昨年刊行した特集号「帰趨としての戦後日本」（本紀要 117）にひきつづき、本年度は小特集「あたらしい日本近現代史研究の模索」を刊行する運びとなった。本年は昨年度で終了した研究課題「戦後民主主義の制度設計」に続く研究課題「敗戦後の統治権力の再建と戦後民主主義論」の初年度である。だが今回寄稿していただいた論稿には昨年度までの研究課題のもとでの成果も含まれている。昨年大部の特集号を刊行したため、今年度は論稿4本の小特集となったが、内容的にはいずれも中堅・若手研究者の研鑽と個性が投影された充実した研究成果である。

顛原善徳「日本国憲法第九十八条第二項成立過程再考」は、戦後日本国憲法施行に際して、日本が取り結んだ国際条約が日本国民を拘束する根拠をどこに求めるかという点をめぐる論争点を整理し、それが日本国憲法第九十八条の規定へと行き着く過程を、未公刊史料を発掘し、実証的に明らかにした手堅い論稿である。これは戦前以来、美濃部達吉や穂積八東、立作太郎らの間で論争が交わされてきた問題でもある。そうした重要な問題でありながら、これまで真正面から問われてこなかった問題に的確に斬り込み、導きだした筆者の結論は刺激的である。これまでの筆者の研究成果と合わせて、大日本帝国憲法と日本国憲法との関連に新たな観点から光を当てる労作であり、今後大きな関心呼び起してしかるべき研究成果であるといえよう。

後山剛毅「『ヒロシマ』の原理—1980年以降の原爆表象を中心に—」は、戦後広島における原爆表象の時代的変遷とその特質を分析した論文である。

問題意識も明確で、論文としてのまとまりもよく、導入的な論として今後さらなる展開が期待される論稿である。後山氏は本学文学部日本史研究学域在籍時以来、ヒロシマをはじめとする戦争、平和と表象の関係に一貫して取り組んでいる若手研究者である。従前の研究の問題意識や視座を精力的に摂取して批判的にのり越えようとした野心的な成果の寄稿を歓迎するとともに、博士論文の完成と今後の活躍を期待したい。

李俊榮「朝鮮人の『内地潜入』と日本帝国の移動統制—『御大礼不穩計画情報』を手がかりに—」は『御大礼不穩計画情報』をはじめとした資料にもとづいて書かれた手堅い実証論文である。1928年11月の昭和天皇の大礼に向けて、「朝鮮人」が内地への「潜入」を画策していたこと、その徴候を事前に察知し危機感を抱いた内地の警察が移動警察制度の整備によって対処しようとしていたことなどを、1928年初頭から8月初めに憲兵司令部が入手した情報をまとめて宮内省の事務課・警察部と日本と朝鮮の軍関係機関に送られた際の記録である『御大礼不穩計画情報』などの原資料や朝鮮の新聞報道などに基づいて跡づけており、これまでほとんど知られていない事実を明らかにした貴重な成果であるとともに、今後の朝鮮独立運動史研究の視野を広げる可能性がある研究成果である。さらに治安警察の多極的情報網やネットワークに基づいた活動実体の一端を明らかにしたことも大きな意義をもっており、その点からも公刊することの意味は大きい。

李俊榮氏は、かつて本研究会の主要メンバーであった佐藤太久磨氏（現在韓国漢陽大学校在職）の指導の下で研鑽を積んだ韓国在住の気鋭の若手研究者である。本研究会のネットワークが国境を越えて広がったことを嬉しく思うとともに、今後さらなる国際的ネットワークの広がりへの布石となることを期待したい。

島田龍「左川ちか年譜稿」は昨年の本紀要117号に掲載された同氏の論稿「詩人の誕生」を補完するもので、左川ちか研究に一貫して取り組む筆者が入念に収集した資料のメモランダムとしても貴重である。今や左川ちか研究

の第一人者ともいえる位置を占めつつある筆者の研究の集大成のための基礎的作業と位置づけられる成果である。

若干分量は多く通常の論稿とは異色の性格のものではあるが、爾後の左川ちか研究者が必ず参照する共有財産となることが予想され、ともすれば基礎研究が軽視されがちな今日において掲載する意味は大きい。今後、本研究会もこうした当該分野の研究の基礎資料となるような成果を掲載し、学術的な基礎研究を支援していきたいと考えている。

今回掲載する論稿はいずれも近代日本の規範、統合、表象、感性や表現が含んでいる重要な問題点を、新資料の発掘、検証によって斬り込んだ意欲作である。その意気込みと趣意を汲んで、統一テーマを「あたらしい日本近現代史研究の模索」と銘打った。それぞれの分野で雄飛しようとしている若手研究者の鼓動を感じ取っていただければ、研究代表者の喜びこれに過ぎるものはない。

2019年12月

近代日本思想史研究会

代表 小関 素明

